

株式会社JCU
証券コード：4975



CONTENTS

身近なところで 活躍するJCU

1

目で見える連結決算ハイライト

3

セグメント別業績概況

4

株主・投資家の皆様へ

5

連結財務諸表

7

株式の概況 / 会社概要

9

JCU REPORT

株主・投資家の皆様へ

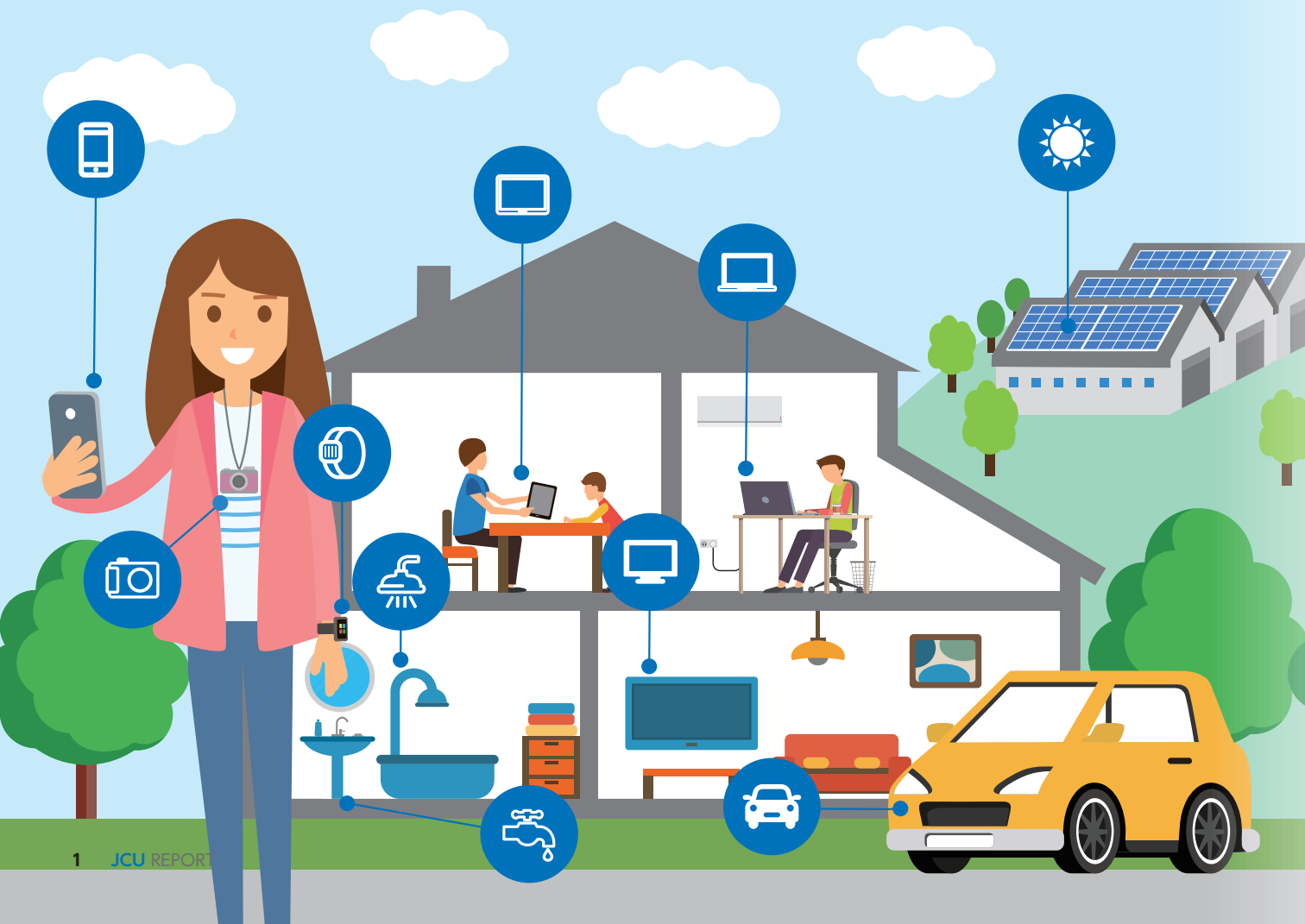
第57期

年次報告書

(2016.4.1 ●● 2017.3.31)

身近なところで活躍するJCU

JCUグループは1968年の設立以来、半世紀にわたり「めっきを中心とする表面処理技術で人々の豊かな暮らしをサポート」し続けてまいりました。自動車やオートバイの部品にめっきを行う技術(薬品と装置)の提供からスタートし、現在ではスマートフォンなど高機能化する電子機器の基板(プリント配線板)製造に不可欠なめっき技術も提供しています。



主 な 事 業 内 容

薬品事業

装飾・防錆分野

自動車部品、水栓金具、建築部材などの装飾・防錆を目的とした薬品を開発し、製造販売を行っています。自動車部品においては、プラスチック上にめっきで金属外観を施すことで高級感を付与するとともに、自動車の軽量化を下支える技術の提供を通して、環境負荷低減に貢献しています。



自動車部品



水栓金具

薬品事業

電子分野

全ての電子機器に使用される基板(プリント配線板)、電子部品、半導体などの製造工程に必要な薬品を開発し、製造販売を行っています。私たちの生活に欠かせない携帯電話やスマートフォンをはじめ、あらゆるものがネットにつながるIoT (Internet of Things)や自動車の自動運転化で高度化する電子部品のニーズに対応する技術の提供を通して、豊かな社会の実現に貢献しています。



プリント配線板



半導体

装置事業

全自動表面処理装置

全自動表面処理装置を薬品プロセスに合わせて設計・製造を行っています。完全オーダーメイドの装置を薬品と一体販売することにより、お客様に最適なプロセスを提供しています。

最も完成度の高い自動装置として、自動車をはじめとするあらゆる工業分野で採り入れられ、納入実績は国内および海外合わせ1,000基以上におよんでいます。



プログラムタイプ全自動
表面処理装置



水平方向搬送処理装置

新規事業

プラズマ処理装置

ドライ処理であるプラズマ技術を用いた基板(プリント配線板)のエッチングおよび洗浄装置の提供を行っています。業界で唯一、表面処理薬品を使用する従来のウェット処理と、プラズマ装置を使用するドライ処理を融合させ、高密度基板(プリント配線板)の製造に対応した技術を提供しています。



枚様式自動搬送プラズマ装置



ロール to ロール自動
搬送プラズマ装置



垂直処理式プラズマ装置

新規事業

太陽光発電設置事業

環境負荷の軽減に貢献する太陽光発電設備の設計から設置、運用に至るまでトータルでサポートを行っています。



太陽光発電設備

目で見える連結決算ハイライト（第57期期末）

売上高

20,760 百万円

前期比4.8%増



営業利益

5,500 百万円

前期比12.1%増



経常利益

5,502 百万円

前期比11.7%増



親会社株主に帰属する当期純利益

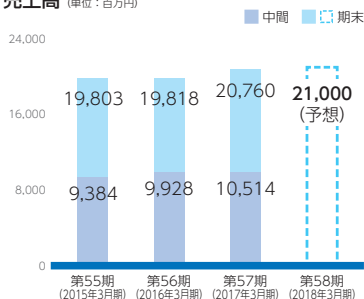
4,124 百万円

前期比20.9%増

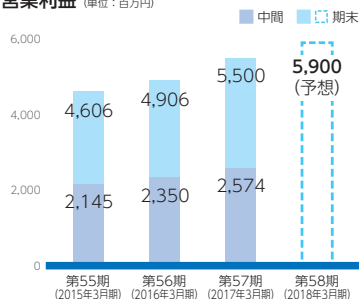


財務ハイライト(連結)

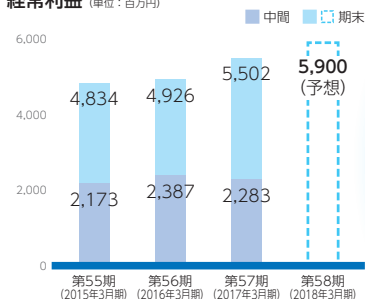
売上高 (単位: 百万円)



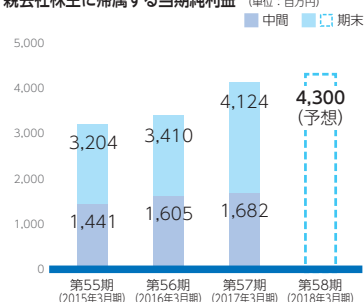
営業利益 (単位: 百万円)



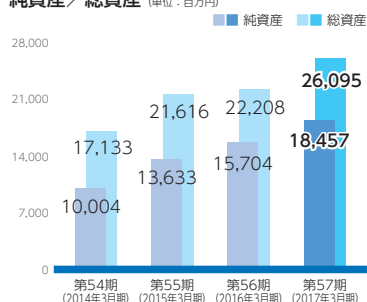
経常利益 (単位: 百万円)



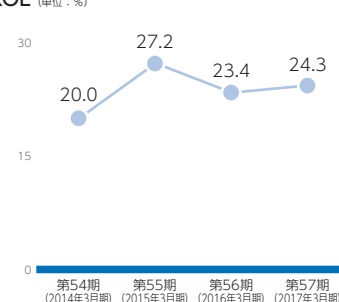
親会社株主に帰属する当期純利益* (単位: 百万円)



純資産／総資産 (単位: 百万円)



ROE (単位: %)



装置事業

10.6%

新規事業

8.4%

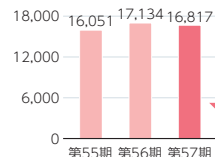
セグメント別 業績概況

薬品事業

81.0%

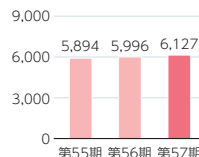
薬品事業

■売上高 (単位: 百万円)



売上高
16,817
百万円
前期比
1.9%減

■セグメント利益 (単位: 百万円)



セグメント利益
6,127
百万円
前期比
2.2%増

薬品事業におきましては、前半にハイエンドスマートフォンの生産調整の影響があったものの、通年で中国系スマートフォン向けの需要が底堅く堅調に推移したことにより、中国、台湾、韓国におけるプリント配線板用めっき薬品の販売が順調に推移しました。また、中国においては小型車減税による自動車の需要が増加したことで、自動車部品用めっき薬品販売は堅調に推移しました。一方で、円高の影響を強く受けた結果、売上高は16,817百万円(前期比1.9%減)、セグメント利益は6,127百万円(前期比2.2%増)となりました。

当社薬品使用例



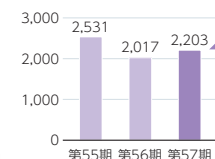
自動車部品



プリント配線板

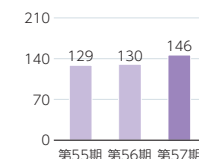
装置事業

■売上高 (単位: 百万円)



売上高
2,203
百万円
前期比
9.3%増

■セグメント利益 (単位: 百万円)



セグメント利益
146
百万円
前期比
11.9%増

装置事業の受注高は、日本および海外において大型めっき装置の受注を獲得したことにより、2,155百万円(前期比80.0%増)と大幅に増加しました。売上高は、手持ちの工事契約が順調に進捗し2,203百万円(前期比9.3%増)となりました。この結果、セグメント利益は146百万円(前期比11.9%増)となりました。

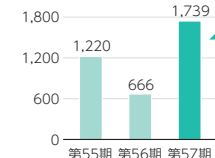
製品一例



全自動表面処理装置

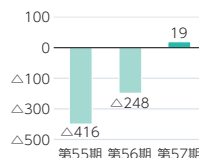
新規事業

■売上高 (単位: 百万円)



売上高
1,739
百万円
前期比
160.8%増

■セグメント利益 (単位: 百万円)



セグメント利益
19
百万円

新規事業の受注高は、プラズマ装置の受注が順調に推移し、大型太陽光発電設備の受注を獲得したものの、1,615百万円(前期比4.3%減)となりました。売上高は、プラズマ装置の販売が好調だったことに加え、手持ちの太陽光発電設備の工事契約が順調に推移したことにより、1,739百万円(前期比160.8%増)となりました。この結果、セグメント利益は19百万円(前期はセグメント損失248百万円)となりました。

新規事業一例



太陽光発電設備

第57期より、組織変更に伴い、従来「新規事業」に含まれていた貴金属めっき薬品および新機能コーティング材について「薬品事業」へ含めて表示しております。なお、第56期のセグメント情報については変更後の区分方法により作成したものを記載しております。

6期連続の増収増益、8期連続

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

第57期の業績と第58期の展望、今後の経営方針について、代表取締役会長兼CEO小澤恵二へのインタビュー形式でご報告いたします。

中国のスマホ向け市場の好調続く

◆ 第57期(2016年4月1日から2017年3月31日まで)は増収増益を達成。これにより5期連続の増収増益となりました。

第57期の期初は、ハイエンドスマートフォンの生産調整から当社主力のプリント配線板市場が影響を受けたことに加え、為替が円高でスタートしたため、強気の予想が立てられませんでした。結果としては、プリント配線板市場は最大市場である中国が好調に推移したことで、当社製品の販売数量は増加しました。第57期は売上高207億60百万円(前期比4.8%増)、営業利益55億円(同12.1%増)、経常利益55億2百万円(同11.7%増)、親会社株主に帰属する当期純利益41億24百万円(同20.9%増)と増収増益を達成しました。

◆ 1株当たり配当金は、期末に5円増配し、年65円となりました。さらに第58期(2017年4月1日から2018年3月31日まで)は中間期の5円増配を公表したことで年70円と、8期連続の増配となる予定です。

(注) 配当金は、第57期の期初に株式分割が行われたと仮定して算出しています。

当社は2017年4月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の割合で株式を分割し、投資単位を引き下げるとともに、株式市場における流動性を向上させました。なお、株主優待制度の対象となる保有株式数は「100株以上から」と変えておりません。従来から、減益の時でも耐えて配当

を維持し、増益の時にはできる限り株主の皆様へ還元する方針を貫いてまいりました。今後もその方針は変わりません。

◆ 第58期は6期連続の増収増益を見込んでいます。

第58期は売上高210億円(前期比1.2%増)、営業利益59億円(同7.3%増)、経常利益59億円(同7.2%増)、親会社株主に帰属する当期純利益43億円(同4.2%増)と増収増益を見込んでいます。海外市場においては、スマートフォン向け薬品および自動車向け薬品の販売が引き続き堅調に推移するとみています。一方、国内市場においては、当社製品の販売が横ばい、あるいは微増とみています。既存シェアの保持、拡大のためにコストダウンや、次世代技術に対応した高性能薬品の開発など、顧客ニーズに合致した新製品の市場投入を図ります。

中国で技術支援強化を検討

◆ 2016年末に経営課題として「体力の強化・温存でリスクに備え、将来の成長に向けて布石を打つ」ことを掲げました。具体的な方策は？

中国は上海、深圳に現地法人があり、お客様が増えていますので、タイムリーに現地要求に対応するためのテクニカルセンターの設置が必要と考えています。このほか、薬品、装置に続く第3の柱としての新規事業を育成していかなければなりません。プラズマ装置は順調に推移しており、楽しみ

の増配へ挑む

があります。一方、太陽光発電設備は工事契約が順調に推移しているものの、売電価格が下がっていることなどから、今後戦略の見直しが必要となってくると考えています。

◆ 売上高の約8割を占める薬品事業では、近年中国の割合が大きくなってきています。その中国では政治体制の違いやバブル懸念などの事業リスクを抱えます。リスクとどう向き合いますか？

米国のトランプ政権による保護主義の台頭、EU(欧州連合)における英国離脱と難民問題、度重なる北朝鮮のミサイル発射など国際情勢は不安定かつ不透明で、リスクはどこにでも転がっています。中国市場は巨大であり、ある程度リスクを取らなければ事業を伸ばすことはできないと考えています。設置を検討しているテクニカルセンターはその表れとなります。

◆ 「表面処理技術から未来を創造する」という新・企業理念を制定しました。経営としては、どのような理想を掲げますか？

事業はコアをしっかりしていきたい。生産性を向上するとともに、業務を見直して効率化を図ってまいります。売上高に占める新製品の割合を増やすよう号令をかけています。また、コーポレートガバナンス(企業統治)、コンプライアンス(法令順守)、CSR(企業の社会的責任)などでも誇れる会社にしていきたい。経営は奇をてらうことなく、王道を歩むのが私のスタンスです。

株主・投資家の皆様におかれましては、これまで以上のご愛顧ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



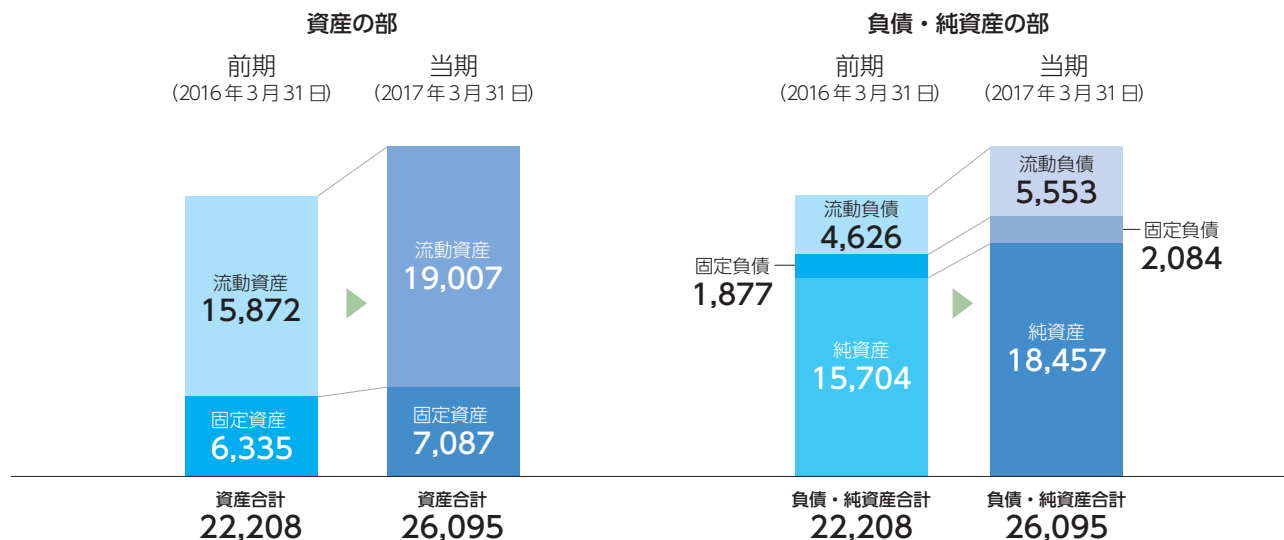
代表取締役会長 兼 CEO

小澤 恵二

連結財務諸表

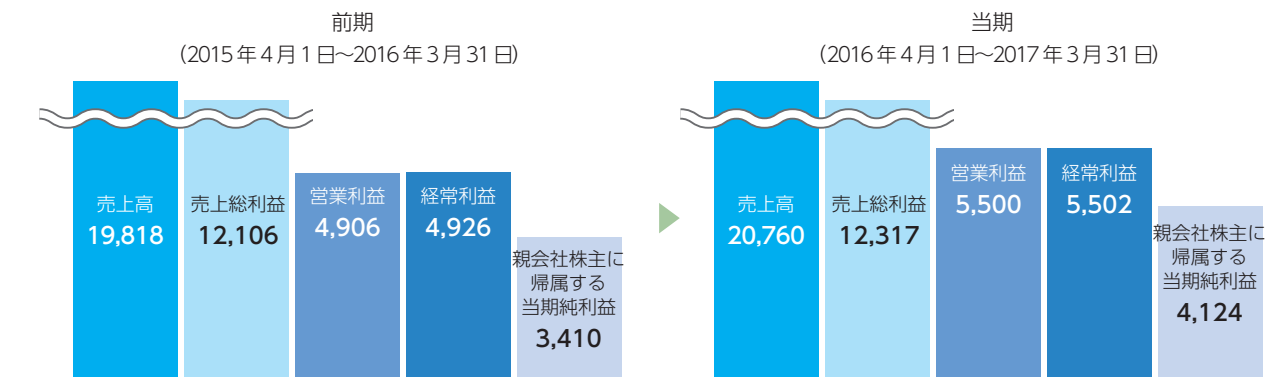
連結貸借対照表

(単位:百万円)



連結損益計算書

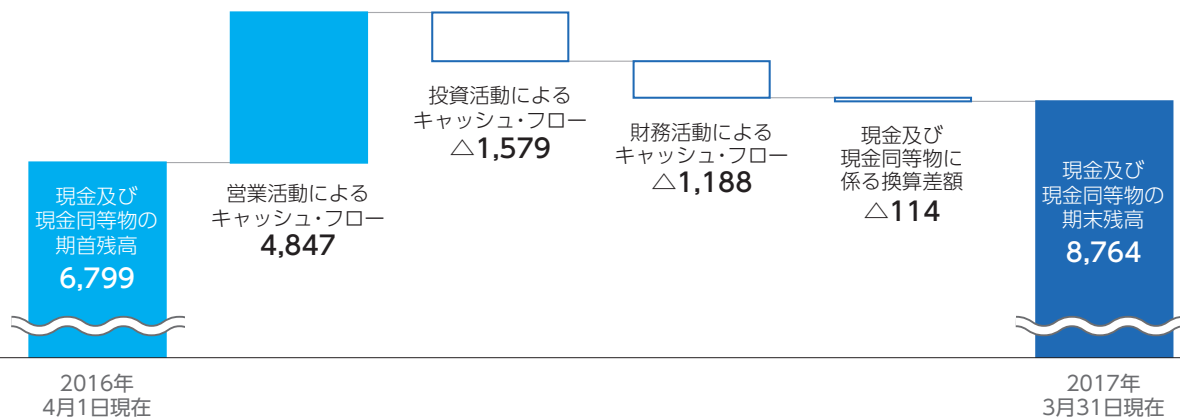
(単位:百万円)



連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

当期
(2016年4月1日～2017年3月31日)



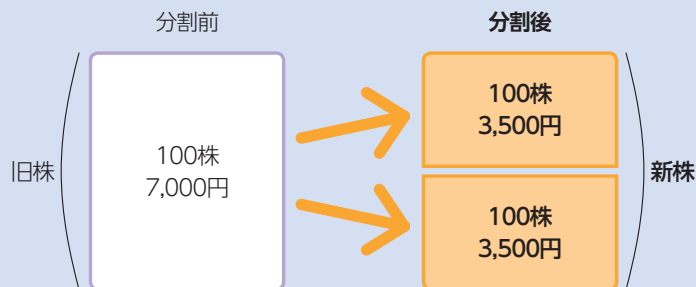
株式分割について

2017年4月1日を効力発生日として、普通株式1株を2株に分割しました。

株式分割によって投資家の皆様がより投資をしやすくなり、投資家層の拡大につながると期待しています。

今回の株式分割に伴い、株主優待制度の一部を変更いたします。

詳しくは裏表紙「株主ひろば」をご覧ください。



※今回の分割のイメージです。株価は架空の金額です。

分割比率 **1対2**

分割基準日

平成29年3月31日(金)

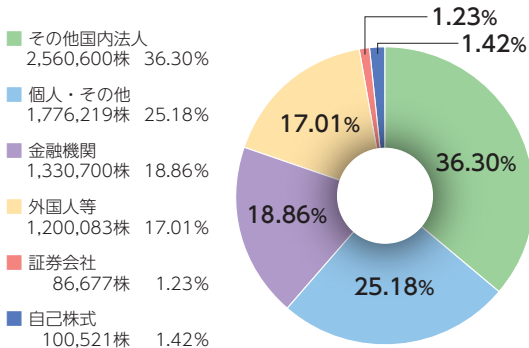
効力発生日

平成29年4月1日(土)

株式の状況

発行済株式総数..... 7,054,800株
株主数..... 4,879名

所有者別株式分布状況



大株主の状況

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	579,300	8.33
日本パーカラijing株式会社	227,000	3.26
日本高純度化学株式会社	220,000	3.16
荏原実業株式会社	200,000	2.87
株式会社スレイ	200,000	2.87
JP MORGAN CHASE BANK 380634	197,800	2.84
日本化学産業株式会社	186,000	2.67
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	169,400	2.43
神谷理研株式会社	160,000	2.30
栄電子工業株式会社	160,000	2.30

(注) 持株比率は自己株式(100,521株)を控除して計算しております。

商号 株式会社JCU(2012年10月1日より)
本社所在地 東京都台東区東上野四丁目8番1号 TIXTOWER UENO 16階
設立 1968年(昭和43年)4月1日
資本金 1,176,255,128円
事業所 ■ 国内
総合研究所 生産本部 大阪支店 名古屋支店 九州営業所
■ 主要な連結子会社
JCU(上海)貿易有限公司
JCU(THAILAND) CO., LTD.
台湾JCU股份有限公司
JCU KOREA CORPORATION
JCU VIETNAM CORPORATION
JCU(深圳)貿易有限公司
PT. JCU Indonesia
JCU AMERICA, S.A. DE C.V.(メキシコ)
JCU INTERNATIONAL, INC.(アメリカ)
JCU CHEMICALS INDIA PVT. LTD.
櫻麓泉(上海)国際貿易有限公司

役員一覧 (2017年6月28日現在)

代表取締役会長兼CEO	小澤	二
代表取締役社長兼COO兼CTO	君塚	一
専務取締役専務執行役員	小林	司
専務取締役専務執行役員	木村	志
常務取締役常務執行役員	林	治
常務取締役常務執行役員	大森	久
常務取締役常務執行役員	新野	徳
常務取締役常務執行役員	谷	望
取締役常務執行役員	松本	順
社外取締役	縄	秀
社外取締役	高	美
常勤監査役	中	彦
社外監査役	澤	正
社外監査役	川	隆
社外監査役	笠井	司
社外監査役	重田	成
執行役員	荻原	敦
執行役員	粕谷	秀
執行役員	鈴木	多
執行役員	林	智
執行役員	今井	英
執行役員	池	浩
執行役員	井上	文
		二

従業員数 連結544名(15名) 単体269名(14名)

(注) 臨時雇用者数(パートタイマー、人材会社からの派遣社員を含みます。))は、年間の平均人員を()外数で記載しております。

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
剰余金の配当基準日	期末配当 3月31日 中間配当 9月30日
定時株主総会	毎年6月下旬
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
公告方法	電子公告 (https://www.jcu-i.com/) ただし、やむを得ない事由によって、電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。

	証券会社等に口座をお持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合 (特別口座の場合)
郵送物送付先		〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部
電話 お問合わせ先		フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く 9:00～17:00)
各種手続 お取扱店 (住所変更、 株主配当金受 取り方法の変 更等)	お取引の証券会社等 になります。	みずほ証券 本店及び全国各支店 プラネットブース(みずほ銀行内の 店舗)でもお取扱いいたします。 みずほ信託銀行 本店及び全国各支店 *トラストラウンジではお 取扱できませんのでご了 承ください。
未払配当金のお支払	みずほ信託銀行及びみずほ銀行の本店及び 全国各支店 (みずほ証券では取次のみとなります)	
ご注意	支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問合わせ先・各種手続お取扱店をご利用ください。	特別口座では、単元未満株式の買取・買増以外の株式売買はできません。証券会社等に口座を開設し、株式の振替手続を行っていただく必要があります。

ホームページをリニューアルしました

ホームページでは、当社の企業情報をはじめ事業情報や、株主・投資家の皆様向けの情報として、決算発表資料等を適時掲載しております。



トップページ



IRページ



<https://www.jcu-i.com/>

株 主 ひ ろ ば

株主優待について

株主優待制度が変わります

当社の株主優待品は

3月31日現在

単元株以上保有の株主様へ

右記のとおり、「ギフトカタログ」を
お届けいたしております。



100株以上400株未満
2,500円相当の品
アクアマリン



400株以上2,000株未満
5,000円相当の品
クリスタル



2,000株以上4,000株未満
10,000円相当の品
ダイヤモンド



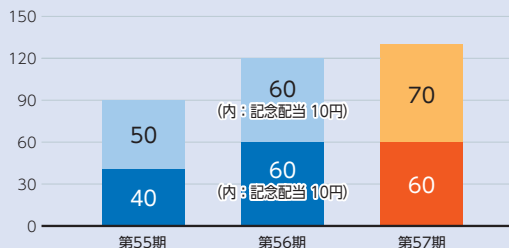
4,000株以上
15,000円相当の品
ラピスラズリ

株主還元について

利益配分に関する基本方針

当社は、将来の事業展開と経営体質の強化のために適正な自己資本比率を維持しつつ、業績の状況に応じて配当性向等を勘案し、安定した配当を実施することを基本方針としております。内部留保資金の用途につきましては、今後の事業活動並びに経営基盤の強化に有効活用していく方針であります。

配当金 (円) ■ 期末 ■ 中間



株式会社 JCU

〒110-0015 東京都台東区東上野四丁目8番1号

TIXTOWER UENO 16階

TEL: 03-6895-7001 FAX: 03-6895-7021

<https://www.jcu-i.com/>

